

## 令和5年度 第2回 平塚市図書館協議会 会議記録（要旨）

開催日時	令和5年11月9日（木）13時30分～15時50分
開催場所	平塚市中央図書館3階ホール
出席者	<p>委員 西田 洋平 会長 久保田 幸子 副会長 高橋 浩也 委員 森谷 芳浩 委員 甲木 なな子 委員</p> <p>事務局 藤田 中央図書館長 熱田 管理担当長 仁和 奉仕担当長 長沼 中央図書館窓口業務委託業務責任者 小泉 北図書館長 落合 西図書館長 市樂 総括責任者兼南図書館長 関山 管理担当主査 渡邊 管理担当主任 笠井 管理担当主任</p>
欠席者	設楽 純江 委員
傍聴人	2名

### 1 議 事

#### （1）今期の重点協議事項の検討及び決定

会長より、正副会長及び事務局案を提示後、各委員の意見を募った。

協議の結果、「学校図書館との連携」、「平塚市図書館全体の効果的な運営」の二つを今期の重点協議事項とすることとした。

- |           |  |
|-----------|--|
| 【 会 長 】   | <p>一つ目は「学校図書館との連携」。第1回会議でも、電子図書館の活用や学校司書との連携、各種イベントの実施などについて多くの議論がされた。前期図書館協議会からの申送事項の一つでもあり、学校図書館と平塚市図書館との連携強化の推進を協議・提案できたらと思う。</p> <p>二つ目は「平塚市図書館全体の効果的な運営」。こちら第1回会議で駅前窓口や夏休み期間の月曜開館など運営面での意見が多く出ていた。また、指定管理者制度や窓口業務委託との協力体制の充実も協議できればと思う。</p> |
| 【 委 員 】   | <p>「学校図書館との連携」は、生徒に一人一台タブレット端末が行き渡ったところであり、これらを活用して様々な形で平塚市図書館と学校図書館が繋がることで、学校教育の推進に寄与されることも期待できる。</p>   |
| 【 副 会 長 】 | <p>「平塚市図書館全体の効果的な運営」について、前回も駅前窓口や夏休み期間の月曜開館について発言した。駅前窓口の利用状況の統計を踏まえ、大規模改修や駅前開発などを見据えながら、長く効果的な議論をしたい。</p>   |
| 【 委 員 】   | <p>「学校図書館との連携」について、第5次平塚市子ども読書活動推進計画策定に向けた準備として、検討していけると良い。</p>  |
| 【 委 員 】   | <p>「平塚市図書館全体の効果的な運営」はテーマが広すぎないか。</p>   |
| 【 会 長 】   | <p>夏休みの月曜開館など、個々に絞ってしまうと狭くなり過ぎてしまう。なるべく多く取り込めるように設定した。</p>   |
| 【 副 会 長 】 | <p>大きな括りの方が次につながる議論ができるのではないか。また、「学校図書館との連携」の1つだけでは、学校関係者以外の委員からの意見が出にくくなってしまう。この2つにすることで、バランスよく他の委員からの意見も反映しやすくなるのではないか。</p>  |
| 【 会 長 】   | <p>それでは、この2つで決定してよいか。</p>  |

【 委 員 】	(異議なし)
<b>(2) 報告事項</b>	
<b>ア 平塚市子ども読書活動推進計画(第4次)中間評価</b>	
事務局から資料(2~43ページ)の説明を行った。	
■補足	
「3 構成事業の実績及び今後の方向性」に目標値が記載されているが、計画には初年度(令和2年度)と最終年度(令和6年度)のみ定めている。中間年度(令和4年度)の目標値はあくまで参考値(例示)である。	
【 委 員 】	平日1日あたり10分以上読書をする割合(7ページ)について、中学校ではかつて朝の読書を実施していた。読書の経験がない生徒にどのように本に興味を持たせていくか、図書館と学校教育の連携で考えていきたい。
【 副 会 長 】	図書ボランティアの数(8ページ)が減っている。特に小さいお子さんを持つ親の参加が少なくなってきた、平均年齢も高くなってきている。10~20年と続けてくれる人もいるが、新規加入者が少ないことが課題である。学校でのチラシ配布や懇親会等でのボランティア活動の紹介をしていただくなど、学校との連携体制の構築が必要不可欠と感じている。
【 委 員 】	中学校でも様々なボランティアを募集しているが、なかなか集まらない。月数回だけの参加でも良いことを伝え、声をかけるようにしている。また、各校の需要に合わせて、学区外の学校へのボランティアの斡旋をできるような仕組みができると良い。
【 委 員 】	学校司書の配置はどのようになっているか。
【 委 員 】	各校一人ずつ、学校司書(サン・サンスタッフ)が配置されている。フルタイムの勤務時間ではなく、小学校であれば朝の読み聞かせに合わせて、中学校であれば午後の放課後開放に合わせて勤務している。各学校司書によって得意分野があり、工夫を凝らした本の紹介等をしている。
【 委 員 】	アンケートの結果を見ると、図書館に行ったことのない生徒が多い。図書室は毎日開いているのか。
【 委 員 】	基本的には開いているが、学校による。
【 副 会 長 】	港小学校区では読み聞かせ・読み語り盛んで、市内小学校の中でも図書館を利用する生徒が多い。本を読むだけでなく、先生の引率で調べ学習等でも利用している。 アンケート結果から、本を読まない子もいるようだが、決して本が嫌いという理由ではない。休み時間は読書と外遊びとの選択で、外で遊ぶ子が多いだけのように見える。 学校図書館の整備・運営に学校司書の協力は必要不可欠である。学校司書が主導となり、ボランティアも協力しながら子どもたちが利用しやすいように図書整備を進めている。
【 会 長 】	学校司書はいくつかの学校を兼務しているのか。
【 委 員 】	基本的には1校である。
【 会 長 】	アンケート結果を見ると、「読みたい本がない」という回答が多い。平塚市図書館と連携することで改善できると思われる。漫画やライトノベルの需要が高いようだが、平塚市図書館としての蔵書はある程度あるのか。
【 事 務 局 】	漫画については、コミックは原則置いていない。平塚市と関わりのある地

	域資料等の一部入れている。市図書館としては、コミックを導入として、そこから活字本へ移行してもらいたい意向がある。どのようにニーズに応じていくか、学校現場の方々と話し合っていきたい。
【副会長】	漫画でも日本の歴史をかたどった作品や偉人の伝記など、ためになる題材のものはある。学校図書館に足を運んでもらうきっかけにもなるので、配架されている。 学校図書館で購入できないものでも、各学級の学級文庫に図書整備ボランティアが本を配備している。教室で本を読めて、図書館に足を運ばなくても読書活動ができる環境が整っている。
【委員】	漫画を置いている中学校の図書室もある。バランスが大事。流行りの漫画を英訳したものも数冊おいており、英語の勉強に役立っている。 学校によっては学級文庫も導入しており、図書委員が生徒会より割り振られた金額で中古本を購入しているところもある。
【会長】	図書館がハブとなって、他の学校の取り組みを繋げられると良い。
【委員】	アンケートの設問「1日にどのくらいの時間を読むか」、「1か月で何冊くらい本を読むか」の結果から、本を読まない人の割合がどのくらいなのかを分析できると良い。
【会長】	電子書籍は貸出件数に入っているのか。(3ページ)
【事務局】	電子書籍は年齢の抽出ができないため、ここでは紙の書籍の貸出件数を掲載している。
【会長】	評価で電子書籍の充実に触れているが、実績にカウントされないのであれば、指標を見直した方がよい。 また、図書館の利用について、小学校高学年になると本は借りずに施設を利用するケースもある。
【副会長】	漫画が中心になると思われるが、本を借りずにスマートフォンで読む時代になりつつある。図書館に来館する人数は減っているが、読書離れはしていない。その辺りも踏まえて、柔軟に課題を考えていく必要がある。
【事務局】	本の活字は読まないが、スマートフォンの活字は読む子どもが増えている。どのように統計を取っていくか、引き続き研究していきたい。

## イ 事業報告

事務局から資料の説明を行った。(44～56ページ)

### ■補足

#### • 一日図書館員

北図書館では、今年度初めて土日に事業を開催。応募人数は若干減少したが、共働き世帯から好評の声を得た。平塚市全体として、平日に参加したい方は中央・西・南図書館、土日なら北図書館と、参加しやすくなった。また、土日開催のため、父親や祖父母の参加も多く見られた。

#### • TOKAI グローカルフェスタ 2023

東海大学が平塚市、秦野市、伊勢原市、中井町等と連携して大学を市民に開放するオープンキャンパス型のイベント。東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター司書課程と平塚市中央図書館が共同して、プログラム名「1日ミニ図書館 with 平塚市中央図書館」として参加。

#### • 地区図書館実施事業（北図書館）

子育てサロンは、平塚の図書館を考える会の声かけで実施。育児講話に加えて、絵本の読み聞かせやブックリストの配布を行った。

北図書館は近隣に住宅が少なく児童だけでの来館が少ない。親子絵手紙教室は、親子で来館するきっかけとなることを期待して開催したイベント。

• 地区図書館実施事業（西図書館）

人形劇は、定員30名が全て埋まるほどの好評。

ミニビブリオバトルは3名で実施。発表された本は壁新聞で館内に掲示している。一部の学校司書の見学もあり、情報交換を行った。

• 地区図書館実施事業（南図書館）

映画会は、南部福祉会館と共催。映画上映後、ブックトークを実施。

司書のお仕事体験会は中学生以上を対象とした事業。高校生が図書館の仕事を体験できるイベントが少なかったため、貴重な経験ができたという声もいただいている。

【 会 長 】	TOKAI グローカルフェスタ2023について、近隣住民の来訪が多く、平塚市図書館の宣伝に力を入れても良かったかもしれない。
【 副 会 長 】	北図書館の実施事業の参加者は何名いたのか。
【 事 務 局 】	子育てサロンは定員7組に対して5組。絵手紙教室は当日1組欠席したが、定員5組ちょうどの申し込みがあった。
【 副 会 長 】	子ども読書活動推進プロジェクト「図書館で標語・ポスターの宿題に挑戦しよう」のように、夏休みの宿題を手伝ってもらえるのは親としてもありがたい。反省事項に周知期間が短かったとあるが、小学校の方からの告知もあればよかったのではないかと。中央図書館だけでなく各地区図書館でも実施すれば、子どもの宿題の面倒を見られない親は大変助かる。
【 事 務 局 】	広報ひらつかやホームページで周知。学校を通じた周知もより積極的に行いたい。
【 副 会 長 】	参加者が増えて人手が足りなくなったら、図書ボランティアも協力できる。
【 会 長 】	対象は小学生か。
【 事 務 局 】	小学校高学年が対象。夏休みの宿題の確定、その確認に時間がかかった。
【 会 長 】	その辺りも、学校図書館との連携で改善が期待できる。
【 副 会 長 】	過去には読書感想文のイベントもあった。再び実施されるとありがたい。
【 委 員 】	宿題に限らず、図書館の資料を使ったイベントは参加者の満足度も高い。また、一日図書館員について、応募者数が定員より多いのに当選者数が定員を下回っているのは何故か。
【 事 務 局 】	4館の合算を記載している。内訳としては、中央、西図書館は定員オーバー、南、北図書館で定員割れしたためである。
【 副 会 長 】	来年度は今回の応募結果を加味して定員を調整し、なるべく落選する人が少なくなるようにしていただきたい。
【 会 長 】	3館コラボ「ちゃいろの夏休み」の展示について、本をガラスケースの中に入れていますが、手にとれるようにした方が良いのではないかと。
【 事 務 局 】	展示している本が全て無くなってしまう恐れもあり、ケースに展示している。借りられる本を増やすなど、来年度の実施時には工夫していきたい。

【副会長】	実際に中も茶色なのか、気になる人もいる。
【会長】	いつから貸し出しが可能になるか掲示しておくのも良い。
【副会長】	南図書館の大人や中高生を対象としたイベントを実施することも良い取組である。自分が所属するボランティアでも大人のための絵本の読み語りを実施し、35名ほど参加された。また、社会福祉協議会で高齢者に昼食を提供するイベントがあり、同時に体操教室や講演会を開催している。今回初めて参加し、絵本の読み語りを行った。子どもに限らず、幅広い世代の読書活動を推進していけたら良い。
【事務局】	市民の図書館体験として、大人も対象とした一日図書館員を開催する。今後、協議会で報告させていただく。
【委員】	市民全体で考えると高齢者の比率が高い。子育て世帯、こども達を対象にした事業と併せてシニア向けの事業を広げていき、祖父母から孫へつながっていくと良い。
<b>(3) その他</b>	
<b>○ 今後の予定</b>	
第3回平塚市図書館協議会 令和6年3月19日(火) 14時30分から16時	
<b>閉会</b>	